

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 勝山市立三室小学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒911-0834 福井県勝山市遅羽町大袋 40-67
E-mail mimurosy@edu.city.katsuyama.fukui.jp
Website http://mimuro.mitelog.jp/mimuro/
幼児児童生徒数 男子 35 名 女子 18 名 合計 53 名
幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「自立の根っこを育てる」を学校教育目標として、ESD を子ども達の豊かでたくましい心と体を育む教育と捉え、ESD の実践を通して、郷土とその自然環境を愛し、地域の人々と協力して、地域の特色を守ったり活性化したりする活動に積極的に参加していこうとする子どもの育成を目標とした。

具体的には、環境学習、福祉・人権を考える活動、ふるさと学習を柱に、①自然とふれあって考える学習、②環境問題を自分の問題として捉える活動、③多様な人々との共存を考える人権・福祉教育、④地域の行事に参加する活動を行った。

① 自然とふれあって考える学習

低学年を中心に学校の周りの生き物探しをし、自分たちで飼育する学習をした。さらに、活動範囲を遅羽町全域に広げて探検してきた。その結果、セイタカアワダチソウが多く生えている場所を見つけ、駆除しようという活動につながった。また、全校で、学校の裏の畑で野菜を育てたり、カンタケを栽培したりした。育てる過程で、雑草、害虫、カラス、イノシシ、サルなどから野菜を守る方法を調べ、自分たちのできる方法を考え、実践してみた。収穫した野菜は、自分たちで調理していただいたり、販売したりした。

② 環境問題を自分の問題として捉える活動

遅羽町のクリーンアップ大作戦に4年生以上が参加し、比較的ゴミの少ない遅羽町にも多くのゴミが捨てられていること、また地域にある工場で働く人たちも協力してくださっており、みんなが協力することで、きれいな環境が保たれていることに気づくことができた。また、年に2回、地域の人たちの協力を得て行っている資源回収に子ども達も参加しており、再生、再利用できる資源ゴミの多さを再認識した。低学年は、セイタカアワダチソウがたくさん生えている場所へ行き、駆除活動を行った。また、そのセイタカアワダチソウを使って、草木染めをしたり、すだれを作ったりして、有効活用できることを学んだ。

③ 多様な人々との共存を考える人権・福祉教育

児童会の活動としてエコキャップやアルミ缶を集め、地域の社会福祉協議会に贈り、車椅子の購入等に役立てていただいている。ハート体験クラブでは、手話体験、車椅子体験、アイマスク体験、育児体験などの体験活動を行っている。どの児童も体験できるように、クラブ活動に参加する3年間のどこかで必ず1度は、ハート体験クラブに所属することになっている。また、5年生は、「命の大切さを考える学習」として、妊婦体験活動を行った。

④ 地域の行事に参加する活動

毎年、全校で遅羽町敬老会や三室まつり、町民運動会に参加している。合唱などの発表、作品の展示参加だけでなく、お年寄りへのメッセージのプレゼント作りや餅の袋詰めなどの手伝いもしている。また、地域の方から踊りを教えていただき、三室まつりでは、地域住民の輪に入って踊っている。今年度は、「美しい町作り」の活動の一環として行ったシバザクラ植えに、遅羽町地域住民協議会の方達と一緒に参加した。



毎朝、畑へ（野菜の世話）



セイタカアワダチソウの駆除活動



車椅子体験（スーパーマーケットにて）



シバザクラの苗の植え付け作業

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(地域の行事に合わせて休日も)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

遅羽町マップ 遅羽町推進委員会
ガンバル企業「親子で語ろう！勝山の企業」福井県勝山市

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

まず、学校教育計画の第1番目、学校教育目標の重点目標にESDと地域との連携について明記している。教科指導、学校行事や地域の行事とも連携させ、縦や横のつながりも考えた上で、学校全体で取り組んでいけるように、各学年でESDカレンダーを作成している。低学年は、主に生活科や学活を中心に、3年生以上は、総合的な学習や学活を中心に活動している。内容によっては、学校行事として行ったり、ボランティア的に自主参加の形で行ったりしている活動もある。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

まず、毎年年度末に、教職員学校評価を行っている。その中に、ESDに関する項目を入れている。実践してみて良かった点や困った点などを挙げ、良かった活動は次年度も継続し、難しかった点はどうするかを考えて次年度に引き継いでいる。また、ESDカレンダーの見直しを毎年行い、不必要な点を省いて、より分かりやすく実践しやすいものにと改善している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

教職員学校評価(内部)・カレンダーを参考にして、ESDに取り組めたか。

・アクティブラーニングを意識した授業ができたか。

学校評価(保護者)・学校は、教育活動や学校生活の様子を分かりやすく伝えているか。

・学校は、地域や保護者と積極的に連携しようとしているか。

(児童)・地区の行事によく参加しているか。

・授業では、調べたり考えたりすることが多いか。

具体的には記述してもらい、それを元に来年度へ向けての話し合い(研究会)を行っている。

成果：子ども達が楽しく意欲的に活動している。地域の一員としての気持ちを持って行事に参加している児童や、遅羽町を好きな児童が増えている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

こんな活動をしているということを、お便り(学校通信、学級通信)やホームページなどで地域に発信した。それならばと、協力してくださる方々が増えてきた。春のクリーンアップ大作戦では、ゴミ拾いだけでなく、セイタカアワダチソウの駆除も一緒に行ってくださっている。また、野菜の植え方を教えてくださる方、イノシシよけの柵を作ってくださる方など、快く協力してくださっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

ほとんどが、学校が所在する地域である遅羽町の方達で構成される団体の協力を得て行ってきた。

他には、勝山市商工観光部ふるさと創生・移住課の方から、勝山市の企業、産業、仕事について、教えていただいた。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

市内のユネスコスクールと活動内容や状況について報告し合う会議がある。そこで成功している点や悩んでいる点等を出し合い、ESD活動がより取り組みやすく良いものになるような情報をお互いに入手している。その他については、時間的余裕がなくてできていない。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

- ・ 児童のふるさと勝山、遅羽町への郷土愛が育ってきており、地域の行事に進んで参加する児童が増えた。
- ・ 虫や生き物、泥などを素手で触ったり、生き物の命を大切に考えたりすることができる児童が増えた。
- ・ 駆除対象の植物や生き物であっても、有効活用の方法を考えることができることを教師も児童も学べた。
- ・ 地域とのつながりが広がり、深まった。
- ・ 教科学習の中で、教師からも、児童からも、ESDの視点から見ることや考えることができるようになった。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

1 自然とふれあって考える学習

全校 : 野菜の栽培活動、カンタケの栽培学習を通して

1、 2 年生 : 遅羽町探検、生き物の飼育活動を通して

2 環境問題を考える活動

全校 : セイタカアワダチソウの駆除活動から・・・

高学年 : クリーンアップ大作戦参加から・・・

: 資源回収から・・・

3 多様な人々との共存を考える人権・福祉教育

高学年(クラブ) : アイマスク体験活動等を通じた福祉・人権教育

4 地域の行事参加を通して、自分たちのふるさとについて考える学習

原始運動会 : 三室縄文遺跡とのつながりと伝統

遅羽町敬老会

三室まつり

町民運動会 : 伝統、町おこし等、地域の一員として考える